

「ぐ…おお…お…きた…ッ
香澄ちゃんイくぜッ!
俺の赤ちゃん産ませてやるッ!!」

「あ…あか…ちや…ん?」

「欲しいだろ?
なあ欲しいだろ俺の赤ちゃんッ
欲しいって言えオラッ!!」

「嫌いやいやああああッ!!
だれかッ誰かああッ!!」

「お、良いねえ腹から声出てるじゃん(笑)」

「孕め孕め香澄ッ!
俺の特濃種汁で孕めえええッ!!」



「ふっ…はあ…すげッ…
射精止まらねえわ…」

「う…ひぐ…う…」

「香澄ま●こ良い…
かなりの上物だぜこれ」

「初セックス記念つうことで
二枚撮っちゃうぜ香澄ちゃん♡」

「あ…ああ…
あ…か…ちゃん…いあ…」

「んじや
俺は口で楽しませてもらおうかなつと」

びゅん
びゅん
びゅん

ド
ク

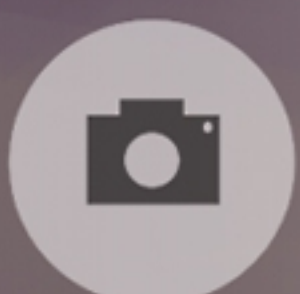
がッ

がッ

がッ

びゅん

びゅん



—十数分後—

「ぐっやべ…ッも…う…
香澄射精すぞ^だ射精すぞッ!!
全部飲めよッ!!」

「ぶッ!?!」



「くああ…ッ!..
やべえ…ち…●ぽ…溶け…る…っ!!」

「ぐッ…お…ごッ!!
んぶ…ぐ…ぶッ!!」

「うへえ香澄ちゃん可哀想(笑)」

「無理矢理種付け決めた奴に
言われたかねえよ」

「ぶ…ッぶ…ッ!」

「ふう、俺まだまだ溜まってるからな
このまま続けていくぜ♡」

「さらに十数分後」

「おおおッイイクッ!!

口ま●こ種付けッ!

香澄の口ま●こ種付けだオラああッ!!」

「おぶッ…ぐぼッ!!
ぶッ…ぶぐ…ッぐッ!!」

ズッ

「ふう〜…きもちい…!」

「…あ…」

「どうだ美味いだろ俺の種汁?
…ってあれ香澄ちゃん?」

「……………」

「あまりの不味さに
気絶しちゃったか(笑)」

「またま●こにブチ込めば意識戻すだろ
香澄ちゃんそんな簡単に
楽にはさせねえぜ♡」







M



